

発行日： 2023-03-21

改訂日： 2023-11-20
バージョン 2

1: 化学品及び会社情報

製品名 Etoposide
製品番号 2200
CAS番号 33419-42-0
分子式 $C_{29}H_{32}O_{13}$

安全データシートの提供者の詳細

製造業者

Cell Signaling Technology
3 Trask Lane
Danvers, MA 01923
United States
電話 +1 978 867 2300
ファックス +1 978 867 2400
メールアドレス

販売業社

CSTジャパン株式会社
東京都千代田区内神田1-6-10
笠原ビルディング10階 〒101-0047
電話: 03 (3295) 1630

regulationjp@cellsignal.com

化学薬品の推奨用途および使用制限

推奨用途及び使用上の制限 ライフサイエンス研究用試薬

2. 危険有害性の要約

GHS - 分類

急性毒性(経口)	区分 4
生殖細胞変異原性	区分 1B
発がん性	区分 1A
生殖毒性	区分 1A
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 2
特定標的臓器・全身毒性(反復)	区分 1

ラベル要素



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H302 - 飲み込むと有害
H340 - 遺伝性疾患のおそれ
H350 - 発がんのおそれ
H360 - 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H362 - 授乳中の子に害を及ぼすおそれ

H371 - 臓器の障害のおそれ
H372 - 長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を使用すること。取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。

対応

気分が悪いときは医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念のある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
口をすすぐこと。

保管

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を承認を受けている廃棄物処理施設に廃棄すること。

他の危険有害性

妊娠中及び授乳期中は接触を避けること

3. 組成及び成分情報

単一化学物質

分子式 C₂₉H₃₂O₁₃

CAS番号 33419-42-0

化学物質名	重量%	化審法番号	ISHL番号	CAS番号
エトポシド	100	情報なし	8-(5)-199	33419-42-0

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移動する。気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに石鹸と多量の水で少なくとも15分間洗い落とすこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。
眼に入った場合	まぶたの裏側まで多量の水で十分に洗うこと。洗っている間、目を大きく開くこと。刺激が続くときは医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口内を洗浄してから十分な量の水を与えます。症状が出た場合には医師の手当てを受けること。
予想される急性症状及び遅発性症状 医師に対する特別な注意事項	過剰暴露の症状として、頭痛、めまい、疲労、吐き気および嘔吐が生じる場合がある。症状に応じて治療すること

5. 火災時の措置

適切な消火剤	現地の状況および周囲環境に適した消火方法を用いること。 水噴霧 泡消火剤 乾燥粉末 二酸化炭素(CO ₂)
--------	---

使ってはならない消火剤 高圧水で漏出物を散乱させてはならない。

化学物質または混合物から生じる特有の危険有害性 情報なし。

危険有害性燃焼生成物	二酸化炭素
特有の消火方法	水噴霧でドラムを冷却すること
消火を行う者のための特別な保護具	消火を行う者は自給式呼吸器および消火活動用の装備を着用しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	人員を安全な区域に避難させること。保護具を使用する。すべての着火源を排除すること。十分換気されているか確認すること。皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。適切な保護衣を着用している場合を除き、損傷した容器や漏出物には触らないこと。取扱い後はよく洗うこと。
緊急措置	項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	安全に行えるなら、それ以上の漏出または漏洩を防ぐこと。地下水を汚染してはならない。
封じ込め方法	安全に行えるなら、それ以上の漏出または漏洩を防ぐこと。
浄化方法	保護具を使用する。粉じんの形成を避けること。回収して適切に表示された容器に移すこと。適切な密封容器に保管して廃棄すること。汚染された表面を十分に浄化すること。
二次災害の予防	環境規則に従って汚染された物体および区域を十分に浄化すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	個人用保護具／保護面を着用すること。
局所および全体換気	局所排気換気装置を併用すること。
安全取扱注意事項	取扱い後はよく洗うこと。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。保護具を着用する。粉じんを吸入しないこと。妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。

保管

保管条件	容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。
------	-------------------------------

8. ばく露防止及び保護措置

技術的対策	シャワー 洗眼ステーション 換気システム
ばく露ガイドライン	この製品は、供給されたままの状態なら、地域独自の規制団体が制定した職業被ばく限界が設定された危険有害物質を一切含んでいない。
生物学的職業性ばく露限界値	該当しない
環境ばく露防止	情報なし
個人用保護具	
呼吸用保護具	換気が十分でない場合は、適切な呼吸装置を着用します。
手の保護	不浸透性手袋

眼/顔面の保護	密着性の高い安全ゴーグル
皮膚および身体の保護	適切な保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的特性に関する情報

特性	値
外観	
物理的状态	固体
色	白色
臭い	情報なし
融点/凝固点	259-273 °C
沸点又は初留点及び沸点範囲	情報なし
引火性	情報なし
燃焼又は爆発の上限/下限	
下限	情報なし
上限	情報なし
引火点	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	情報なし
溶解度	
相対ガス密度	情報なし

その他の情報

爆発性	情報なし
酸化特性	情報なし
分子量	588.56 g/mol

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
安定性	通常の条件下で安定
危険有害反応可能性	通常のプロセスではない
避けるべき条件	情報なし
混触危険生成物	強力な酸化剤
危険有害な分解生成物	二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性

化学物質名	LD50 経口	LD50 皮膚	LC50 吸入
エトポシド	1784 mg/kg (Rat)	-	-

症状 過剰暴露の症状として、頭痛、めまい、疲労、吐き気および嘔吐が生じる場合がある。

製品情報

経口	飲み込むと有害。
吸入	吸入すると有害のおそれ。
皮膚腐蝕性 / 刺激性	刺激を生じるおそれ。
眼に対する重篤な損傷 / 刺激性	刺激を生じるおそれ。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性または皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	染色体異常試験において陽性。インビトロ(in vitro)試験は変異原性作用を示している。ヒトに対して変異原性であると考えべき物質。
発がん性	この化学物は、国際がん研究機関(IARC)により、ヒトに対する発がん性が認められる物質(グループ1)に分類されている。下の表は各機関がいずれかの成分を発がん性としてリストアップしているかを示す。

化学物質名	日本	IARC
エトポシド 33419-42-0		1

生殖毒性	生殖有害影響のおそれ - 先天性異常、流産、又は不妊症など。
発生毒性	胎児に害を及ぼすリスクの可能性はある。
特定標的臓器・全身毒性(単回)	全身毒性
特定標的臓器・全身毒性(反復)	骨髄 肺
吸引性呼吸器有害性	情報なし

12: 環境影響情報

生態毒性 この製品の環境に与える影響は完全に調査されている。

残留性・分解性 難分解性

生物蓄積

化学物質名	オクタノール/水分配係数
エトポシド 33419-42-0	0.6

移動性 水溶性が低いため環境中で移動性になる可能性は低い。

内分泌かく乱物質情報 この製品は、既知の内分泌かく乱物質または内分泌かく乱が疑われる物質を一切含有して

いない。

13. 廃棄上の注意

残留物/未使用製品からの廃棄物 現地の規則に従って廃棄すること。環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。

汚染された梱包 空容器を再利用しないこと。

14: 輸送上の注意

IMDG/IMO 規制対象外

ADR/RID 規制対象外

IATA 規制対象外

日本 規制対象外

15: 適用法令

化学物質又は混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

労働安全衛生法

化学物質名	区分	政令番号	含有率 %
エトポシド 33419-42-0	安衛法表示対象物質	別表第9の460の5	100

発癌性物質

がん原性物質 (労働安全衛生規則第 577 条の2 第3 項)

16: その他の情報

発行日: 2023-03-21

改訂日: 2023-11-20

改訂記録 SDSの余白にある記号(*)は、その行が改訂されたことを示す。

安全データシートで使用される略語および頭文字のキーまたは凡例

凡例 項目8: ばく露防止及び保護措置

TWA: 時間加重平均値 Ceiling: 最大限值:
* 皮膚兆候 + 感作物質

本SDSの編集に使用した主要参考文献およびデータ源

環境有害物質・特定疾病対策庁 (ATSDR)
 米国環境保護庁ChemViewデータベース
 欧州化学品局
 欧州食品安全機関(EFSA)
 EPA (環境保護庁)
 急性暴露ガイドラインレベル(AEGL)
 米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法
 米国環境保護庁高生産量化学物質
 フードリサーチジャーナル (Food Research Journal)

危険有害性物質データベース
国際統一化学情報データベース(IUCLID)
日本GHS分類
オーストラリア国家工業化学品届出審査機構(NICNAS)
NIOSH(国立労働安全衛生研究所)
米国医学図書館ChemID Plus(NLM CIP)
米国医学図書館のPubMedデータベース(NLM PubMed)
米国国家毒性プログラム(NTP)
ニュージーランド 化学物質分類・情報データベース(CCID)
経済協力開発機構、環境・健康・安全に関する文書
経済協力開発機構、高生産量化学物質点検プログラム
経済協力開発機構、スクリーニング情報データセット
RTECS(化学物質毒性データ総覧)
世界保健機構

免責事項

このSDSは、JIS Z 7252:2019およびJIS Z 7253:2019(日本)の要件に準拠しています。この化学物質等安全データシートに記載されている情報は、その発行日の時点において、我々の知識、情報および信念のおよぶ限りにおいて正確なものです。ここに提示されている情報は、安全取扱、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、および放出の指針とすることのみを目的としたものであり、保証または品質仕様と考えるべきものではありません。この情報は、指定された特定の物質にのみ関連するものであり、本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの物質と併用した場合、または何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシート 終